十年前なら助からなかったかも　　日岡由美子

私は2年前胸の痛みと背中の痛みで、座ってしか眠れなくなり、軽い気持ちで病院を受診しました。 医師は私の胃の辺りのしこりに気付き（私も前から気になっていたのですが・・・）エコーをかけると、お腹の中に肝臓大の塊とその下に、まるでブドウの様な塊が見えました。その場で胃カメラの検査も受けましたが、異状は無く、大きな病院で詳しく見てもらうように言われました。 医師の驚いた表情と慌て振りから見て、ただ事ではない、私は感じとったのです。

２日後、紹介された病院で「90％以上、悪性リンパ腫」と診断されました。悪性と聞き、ドキッとして「まさか悪性とは、癌なのですか」と尋ねると「そうです。血液にできる癌です」と、あまりにあっさりと医師に告げられたのです。不思議とショックは少なかったものの「これからどうなるのだろう。どうしたらいいのだろう」という思いが頭の中を巡っていました。

１０日後病名を確定する生検の検査結果を聞きに、夫と二人で行きました。悪性リンパ腫に間違いありませんでした。幸運なことに抗がん剤で寛解まで持ち込める癌という説明を受けました。それでも夫は、CTの画像や治療法に納得できず、怒りだしました。私よりもショックが大きかったのです。子供達は不安な顔で泣き出す始末。 内心、腫瘍が余りに大きかったので、切除も出来ず、抗がん剤で腫瘍が無くなるとは思えず、死ぬかも知れないなぁと思っていましたが、家族を支える為私は笑って病気に立ち向かう決意を固めたのです。

医師が、病気について知る事が闘病に役立つと勧めたので、必死で悪性リンパ腫について勉強しました。どんな病気で、どんな治療法があるかを担当医師が丁寧に説明して下さいました。自分でも本を読んだり、ネットで調べたりしました。病気を知り治療法を知る事で心は落ち着きを取り戻していました。

そして初めての抗がん剤を投与しました。アレルギー症状がでて、１２時間以上の点滴となりましたが無事に終わりました。嬉しい事に、胃の辺りにあった腫瘍は、自分の手で触って分かる程小さくなりました。

抗がん剤は効く、と私は確信しました、後は辛い治療に耐えるだけ。副作用で、食欲は無くなり、手足はしびれ、味覚も無くなりました。2週間後には髪も抜け始め、髪の毛が抜けていく度に、涙がこぼれました。後、7回も治療を受けるんだから、どうせ髪はほとんど無くなるだろう、そう思った私は、暗い気分から抜け出す為の秘策として、自ら頭を丸めたのです。さすがに剃ってもらう時には、複雑な気分でしたが、いざ坊主になって見ると、気持ちが楽になり爽快な気分でした。

それから私は人前で泣くこともなく、いつも笑って闘病生活を送りました。 何事も気持ちが大事。病は気から。病気が悪くとも心の持ちようで少しは光が見えてくる。 医療は日々進歩しています。今治らなくても、病気と仲良く付き合っていけば、その内良い薬や治療法が見つかるかも知れない。

「死ぬかもしれない」と思った日から2年3ヶ月。「10年前なら、おそらく助からなかったかも」と感謝しながら毎日を送っています。おまけの人生だと思って。